

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------|-------|-------|
| 事業所番号 | 4078300094 | | |
| 法人名 | 有限会社 西日本総合 | | |
| 事業所名 | 立花グループホームかつき苑 | ユニット名 | 東館 西館 |
| 所在地 | 福岡県 | | |
| 自己評価作成日 | | | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------|---------|-----------|
| 評価機関名 | 株式会社 アーバン・マトリックス福祉評価センター | | |
| 所在地 | 福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号 | | |
| 訪問調査日 | 平成25年5月6日 | 評価結果確定日 | 平成25年9月9日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

決められた1日の予定を消化していくのではなく、生活者のペースに合わせたゆっくりとした生活をおくっている。調理が好きな方が調理を手伝ってもらったり、掃除が好きな方は一緒に掃除したり、裁縫は好きな方は、ぞうきんを作ってもらったり、やりたいことをやれる環境をつくっている。苑のバスにて季節ごとの風物や催しなどを見にお出かけを行っている。苑に花壇や畑を作っており、生活者自身が耕し育てている。収穫した野菜はみんなの食卓にあがっている。グループホームの生活者であっても、関連施設であるデイサービス等を利用したり、逆にグループホームにデイの利用者に来てもらうなど相互に協力しあう体制がある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設12年目を迎えた今年度の創立記念日には地域の方々を招待し、また、夏祭り等の行事もボランティアの方々の協力を得ながら盛況に開催されている。併設される地域支援ホールは、老人会の会合場所としても活用される等、地域に根付いた存在となっている。
カンファレンスの内容は、個別の「暮らし」を大切に日々の取り組みが伝わるものであり、活発な意見交換が行われていることが、議事録から確認できる。生活習慣やリズムを尊重し、日々の意向や状況の変化にも柔軟に対応しながら、個別の生活の営みを継続できるよう尊重している。また、ホームとしてバスを所有しており、代表者や職員が運転し、家族にも声かけを行い、バスハイクに出かける機会も多い。家族や地域等、様々な関係者との連携や交流を積み重ねながら、地域の福祉拠点としての活動展開を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|--|----|---|--|
| 58 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 65 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 59 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 66 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 60 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 61 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 70 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 64 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

| 自己評価および外部評価結果 | | | | |
|--------------------|-----|---|---|--|
| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 |
| | | | 実践状況 | 実践状況 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 敬天愛人・独立自尊・日日感謝を法人全体の理念としている。また「地域に根付き、地域と共に暮らせるように支えていきます」という文言の入ったグループホーム理念を朝礼にて毎日、全職員で唱和し、実践できるための確認を行っている。 | 事業所独自の理念は、法人代表者と共に、毎朝、唱和されている。日々のタイムリーな話題等をもとにした講話もあり、様々な視点から、理念を基にした支援の実践に向けて、意識を高めている。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の集会に参加したり、行事や推進会議に区長・老人会長・民生委員等を招き交流をもっている。創立記念日には地域の区長・老人会長・民生委員等を招待して開催した。また地域の小学生の体験授業を受け入れたりしている。 | 開設12年目を迎える創立記念日には地域の方々を招待し、また、夏祭りもボランティアの方々の協力を得ながら盛況に開催されている。併設される地域支援ホールは老人会の会合場所としても活用され、職員は感染症対策等について情報提供を行なっている。地域の行事や祭には積極的に参加し、交流を深めている。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 毎年グループホーム職員が老人会の集会等に参加し、インフルエンザ予防や感染症などの講演を実施している。また地域支援ホールを24時間地域に開放している。 | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 老人会長・民生委員・行政・家族代表・生活者代表などの方が参加されている。外部評価などの事項は推進会議にて報告し、その際参加者より意見等をいただき記録を残し、実践するよう心がけている。 | 運営推進会議は、複数の生活者代表、家族、地域住民、民生委員、市職員等の参加を得て、定期開催されている。全家族への案内を行い、積極的な参加を求めている。災害対策や看取り、日常のリスク等を議題として取り上げ、情報共有や意見交換を行い、運営への反映に努めている。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 八女市役所立花支所の福祉担当者に推進会議へ参加していただいている。八女市役所、旧立花役場の福祉及び生保担当者には家族問題や金銭問題、生保など色々な相談等しながら苑での取り組みを相談している。 | 運営推進会議には、市担当者の出席を得ている。また、不明な点や困難事例への対応等については、直接出向いたり、電話連絡等を通じて、情報共有や相談を行っている。ケースワーカーの方との連携を図っている。 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職員に対しては身体拘束に関する理解を深めるよう朝礼や研修等で説明を行っている。また身体拘束をしないでいようなケアを行うためのケア内容の検討などを朝礼やカンファレンスにて行っている。 | 内部研修や日々の朝礼時を通じて、身体拘束をしないケアについて、理解を深めている。また、暮らしの中で想定されるリスクや、抑圧感の無い暮らしについて、運営推進会議の中でも議題として取り上げ、意見交換や共有認識を図っている。言葉使いや対応による抑制についても振り返る機会を持ち、職員の意識を高めている。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員に対しては虐待に関する理解を深めるよう朝礼や研修等で説明を行っている。また虐待とならないケアを行うためのケア内容の検討などを朝礼やカンファレンスにて行っている。 | | |
| 8 | (6) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 朝礼等にて周知しているが、今後研修等にて学ぶ機会をさらに作る予定である。 | 入居時に、法人代表者により、権利擁護に関する制度について情報提供が行なわれている。朝礼時には制度の理念や意義について話し、職員の理解を深めている。今後も研修等にて、職員の理解を深めていく意向である。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 十分な説明と疑問があれば尋ねていただけるよう配慮し、契約を行っている。 | | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見箱を設置したり、面会時にもご家族とお話ができるように必ず声掛けをおこなっている。推進会議にも利用者・家族代表の方にも参加していただいているので十分意見を聞けるように配慮している。 | 運営推進会議の開催案内を全家族に行っている。年1回、夏祭りの開催後に、家族会を開催している。その後に職員の反省会も実施され、課題に向き合っている。3か月に1回、介護計画に連動する個別の状況報告書を作成し、情報共有に努めている。 | |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員の意見は管理者が普段から聞けるように良好な関係を構築している。またその意見は管理者より代表者に提案するようにしている。 | 朝礼時や申し送りの際に時間をつくり、意見交換を行っている。活性化に向けて、持ち回りで研修を担当し、職員の主体性の発揮や、風通しの良い職場環境づくりに取り組んでいる。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表は職員の努力ややる気を押し進め、本人の能力向上のため研修に参加させ、スキルアップに努めている。 | | |
| 13 | (9) | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 職員の採用に関しては不当な理由での排除は行っていない。職員の働く意欲が出て能力が発揮できるように、朝礼などを通じ資料を配ったり、訓辞などが行われている。 | 職員の採用にあたり、年齢や性別による排除は行っていない。人柄や適性を重視し、管理者も面接に立ち会っている。積極的に外部研修への参加を促し、サポートを行ったり、内部研修を持ち回りで担当している。共用空間の飾り付けや誕生日の手作りプレゼント作成、大型バスの運転等、職員の特技や資格の活用場面がある。 | |
| 14 | (10) | ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 朝礼や研修にて生活者の人権尊重にも取り組んでいる。職員の倫理綱領にも個人の尊重や差別プライバシーなどの基本的な遵守事項を定めたりしている。今後は研修の機会を作る予定である。 | 倫理セミナー等の外部研修に参加し、伝達を行っている。また、朝礼時には、タイムリーな話題を取り上げ、様々な視点から人権尊重への意識を高めている。ストレスケアに関する研修も実施されている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部での研修には積極的に参加を呼びかけ費用負担も行っている。またヘルパー2級等の資格取得を推奨している。 | | |
| 16 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム協議会や協議会等が主催する研修に積極的に参加させている。また、他グループホームへ訪問し見学するなどの機会を設けている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 管理者を中心によく生活者の話しをきくようにしている。また安心して生活していただけるよう希望などを聞き、最大限実現するよう努力をしている。 | | |
| 18 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族にも不安や不明な点がないかよく話しを聞き、信頼関係が築けるよう心がけている。 | | |
| 19 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | かつき苑のサービスはもちろん、外部の様々なサービスの紹介を含め、提案している。 | | |
| 20 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | できるだけ家事等に参加していただくよう各生活者の特性を理解しながら協力をお願いしている。生活者も家事を楽しまれており、生きがいとなっている。 | | |
| 21 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 介護できる家族がない場合が多いが、家族へ3～4ヶ月に一度は近況報告書を出したり、面会時には普段の様子を伝えたりするよう心がけている。また、年1回家族会を実施したり、各行事に参加してもらっている。 | | |
| 22 | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 知人の方の面会も来ていただいている。地域の祭りや催しなどにはバスで生活者を連れて参加するようにしている。 | 家族や友人、地域の方の訪問する機会も多い。また、地域行事や伝統行事への参加を通じて、馴染みの関係性の継続を支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 23 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の関係も踏まえ、生活の様々な場面で席の配置や部屋割り等を生活者同士の関係などを鑑みて調整している。また仲の悪い方同士の場合も職員が間に入り仲裁したり、別の話題を話したりしてトラブルを未然に防ぐ努力をしている。 | | |
| 24 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 亡くなられた生活者の家族が野菜をもってきて下さる方もいる。良い関係を継続していきよう努力している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 生活者がここでどのように暮らしたいか、日頃ケアの中でマンツーマンになる機会に話を聴くようにしている。希望があった場合は介護計画や日常生活に希望を反映できるようにしている。 | カンファレンス記録から、個別の暮らし方についての話し合いや、実践に向けた検討が行われており、介護計画への反映も確認できる。日常の中で、言葉や表情、何気ない仕草等から思いや希望の把握に努め、本人本位の検討に努めている。 | 個別の「暮らし」に向き合い、実践に向けた取り組みが行われている。家族の協力も得ながら、これまでのライフスタイルやこだわり等の情報を収集し、新たな視点での気づきを共有することで、更にカンファレンスが充実していくと思われます。アセスメントの工夫や充実が期待されます。 |
| 26 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 新たに入居された際は、苑での生活に役立てられるように過去の生活歴や嗜好などの聞き取りを行い、フェースシートに記入している。 | | |
| 27 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 職員1人1人が感じたり、聞いたりしたことは申し送りやカンファレンスを通じ、一人一人生活の状況を把握し、記録を行っている。 | | |
| 28 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 計画作成担当者を中心に月に1回カンファレンスを行い、介護計画に反映するようにしている。また最低半年に一回は主治医の意見書等を参考にモニタリングを行い介護計画の作成を行っている。 | 個別のカンファレンスでは、個別の「暮らし」について活発な意見交換が行われており、個別、具体的な介護計画の作成へと結び付けている。毎月、担当者によるモニタリングが実施され、現状の確認と見直しの必要性について検討されている。 | |
| 29 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 生活者の状況は記録や申し送りノートに記入し、全員が同じケアができるように努力している。今後はそのためのケア内容確認カードを導入し、さらに介護の質の向上を目指している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | かつき苑は共生ホーム・デイサービス・ケアプラン・グループホームと多くのサービスを提供している。生活者の状況や精神状態によってグループホームだけでなく他のサービスを利用したり、対応してもらするなど、個別のサービスに捉われないケアを実践している。一人一人の状態に応じ、サービスの変更や新しい方法なども必要に応じ行っている。 | | |
| 31 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 家族や地域の方などから意見を聞いたり、地域の行事に参加するなど努力を行っている。また近隣の方へ差し入れをしたりして関係を作っている。 | | |
| 32 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医が定期的に苑に往診に来ている。また専門的な医療が必要な場合は、主治医・看護師の意見を聞き必要な医療が受けられるように受診の支援を行っている。また主治医が勤務している日は毎日FAXで異常のある方の報告相談し指示をいただいている。 | 入居時に、かかりつけ医について確認を行っている。月二回の訪問診療や、家族との連携による他科受診、透析等の通院支援が行われている。FAXにて、毎日、協力医療機関との情報共有が図られている。 | |
| 33 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師は全生活者の状態を把握し、必要に応じ、介護職員や主治医、家族等に連絡相談を行い適切な医療を受けられるよう援助している。 | | |
| 34 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院後の生活者の生活の援助や家族への連絡等を行ったり、入院先の医療機関と情報交換を行い適切な治療が受けられ、またスムーズに退院ができるよう対処している。 | | |
| 35 | (15) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 終末期をどこでどう迎えるか、家族へ希望を聞き確認する書類を作成している。それをもとに終末期ケアを実践している。 | 入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について事業所としての方針を説明し、本人、家族の意向確認や、同意書の作成を行っている。状況の変化に伴い、関係者での話し合いを重ね、方針を共有している。これまでに、暮らしの延長にある看取りを支援した経緯もあり、職員や看護師によるエンゼルケアも実施されている。 | |
| 36 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 研修等により緊急時の対応方法などを理解する機会を作っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | (16) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 昼・夜両方の時間帯を想定した避難訓練をすでに実施している。また、消防等に意見を求めたり、地域の協力者を作り、緊急時に備えている。また関連施設にも協力できる体制がある。 | 年2回、消防署の指導のもと、昼夜を想定した避難訓練を実施し、入居者も全員参加している。訓練時には、近所の方や、近隣の同法人事業所からの参加も得ている。食材の備蓄や電気系統の整備等も実施されている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | (17) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 様々な機会では生活者の尊厳・プライバシーに配慮した対応をするように指導している。入浴時は同性による介助をしたり、排泄介助時はカーテンを使うなど配慮している。 | 排泄ケアや入浴時の対応には特に留意し、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。また、申し送りやミーティングの中で、振り返りや確認の機会を持ち、日頃から意識を高めるようにしている。 | |
| 39 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 介護者の一方的なケアにならないよう自分で希望を言えるように話を聞くようにしている。それらをカンファレンス等で話し合う機会も作っている。 | | |
| 40 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | あえて強制的な日課を作らず、その日の体調や希望によって生活者のペースで生活してもらうように心がけている。 | | |
| 41 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | できるだけ生活者のしたいおしゃれができるよう配慮している。女性の生活者にマニキュアをつけたりした。 | | |
| 42 | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 生活者の嗜好を把握し、食事形態を変えたり、嫌いなものときは別のものを作ったりしている。下ごしらえや味見、片付けなど生活者にも手伝ってもらいながら行っている。 | 一日おきに食材の買い出しに出かけ、時には入居者の方も同行している。嗜好やバランス、季節感等に配慮された献立が作成され、下ごしらえや後片付けをともに行っている。個別の嗜好や機能に応じた細やかな配慮も行われており、食後はゆっくりと余韻を楽しんでいる。晩酌の継続も支援している。 | |
| 43 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事は記録するようにしている。水分は定時には必ず摂ってもらうようにし脱水等を予防している。病気等で食事や水分量が入らなくなった方には、必要に応じ主治医と相談しながら、ゼリー・流動食等も対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアチェック表を作成し、自分でできる方は自力で、介助が必要な方は職員が、一人一人にあった口腔ケアを実施している。 | | |
| 45 | (19) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個別にトイレ誘導を行い、失禁のないように対応している。時間をきめて誘導する方もあるが、希望にあわせて誘導する方もある。できるだけトイレでの排泄ができるように介護計画を立てている。 | 個別の排泄パターンやサインの把握に努め、介護計画の中に位置付けながら、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。リハビリパンツから布パンツへの意向も支援している。食材の工夫や乳製品の摂取等、便秘予防にも配慮している。 | |
| 46 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便はすべて量や回数をチェック表につけている。それにより排便がない、または下痢状態を把握し、看護師や主治医と相談し対策を行っている。 | | |
| 47 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 誰がいつ何時に入浴などは決めず、バイタルや看護師と相談しながら生活者のペースや必要性にあわせ入浴を行っている。またその記録をつけている。 | 毎日入浴準備を行い、希望や体調、状況にあわせて柔軟に対応している。週3回程度は入浴できるよう、無理強いとにならないように支援している。入浴剤を用いたり、時には温泉に出かける等の支援も行われている。 | |
| 48 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 起床時間や消灯時間は決めておらず、生活者自身が自分のペースで寝起きしてもらっている。体調や病状に合わせてながら、生活者自身の希望で午睡もしてもらっている。 | | |
| 49 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方箋を管理し、看護師や主治医をとおり、服薬の管理を行っている。症状についても看護師主治医にそのつど相談し、薬の内容を決めてもらっている。 | | |
| 50 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 野菜の皮むきや配膳、掃除、洗濯たたみ、畑仕事など生活者の一人一人の希望や嗜好に合わせて、やりたいことができるようにしている。また、カンファレンスでも何か出来る事やしたいことがないかなど話し合う機会を作っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | (21) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 散歩や畑仕事など希望により個別に対応している。また、季節にあわせバスにて祭りや自然を観察しに外出したりしている。 | 敷地は広く、玄関先やウッドデッキでの日光浴、畑仕事等、戸外での時間を過ごしやすい環境である。バスを所有しており、仕出し弁当を持参し、家族にも声かけしながら、バスハイクに出かける機会も多い。周辺の散歩や買い物は、少人数で出かけている。 | |
| 52 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金を管理できる方には管理してもらっている。買い物など希望があれば対応するようにしている。 | | |
| 53 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話や手紙の希望があればその都度支援している。 | | |
| 54 | (22) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節の野花を飾り愛でたり、季節にあった創作物を掲示したり、行事の写真を掲示するなど、全館で生活者が快適に生活できるよう配慮した環境作りを心がけている。 | 共用空間は、生活感と家庭的な雰囲気があり、日々の営みを感じられる。各所に椅子やソファが配置され、その時々々の寛ぎの場所や、居場所が確保されている。 | |
| 55 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | いつも座る以外のイスとソファを配置し、思い思いの過ごし方ができるように配慮している。 | | |
| 56 | (23) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 生活者や家族から意見や希望をききながらベッドやふとん、たたみのセッティングを行っている。 | 各居室は、個別のライフスタイルや身体状況にあわせて、ベッドや畳ボードが選択されている。電子ピアノやCDデッキ、ラジオ等が持ち込まれ、これまでの暮らしの継続を支援している。生活感ある居室が多く、プライベートな空間が確保されている。 | |
| 57 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 適所に手すりを設置し、移動が困難な場所には職員が介助して移動してもらっている。 | | |